

第27回 脳神経科学コアセンターセミナー
新学術領域マイクロエンドフェノタイプセミナー
加齢研セミナー / 脳科学センターセミナー
第4回 災害精神医学・神経科学セミナー

- 日時 2014年6月20日(金)
講演：16:00～17:30、懇親会：17:30～19:00
- 会場 スマートエイジング棟1階国際会議室
(懇親会：スマートエイジング棟1階ロビー)
- 講師 喜田 聡 SATOSHI KIDA
東京農業大学 応用生物科学部バイオサイエンス学科
Dept of Bioscience, Tokyo University of Agriculture
- 演題 恐怖記憶制御基盤から見た心的外傷後ストレス障害
(PTSD)のマイクロエンドフェノタイプ
Regulation of fear memory and microendophenotypes
of Post-traumatic Stress Disorder

精神疾患はゲノム要因のみならず、環境要因との複合的要因による高次脳機能障害が原因と考えられますが、その基盤となる分子・細胞・回路レベルの脳内現象は未だブラックボックスの状態であり、精神疾患の機構解明は、基礎から臨床に至る多段階の解析を必要とする最も難易度の高い生命科学の課題です。精神疾患の病態解明のためには、ゲノム解析のみでは限界が見え始めている一方、精神疾患研究では臨床研究とモデル動物等を用いた基礎研究が別々に進められている状況であります。精神疾患のゲノム研究の対象として注目されるエンドフェノタイプについても、現状では心理・生理・行動レベルの表現型であり、基礎研究の対象になり難いところがあります。このような状況の中、私達は分子動態・細胞・回路レベルで可視化された精神病態、すなわち、「マイクロエンドフェノタイプ」を共通概念として、多様な基礎研究者が結集してマイクロエンドフェノタイプを同定することで、ヒトと動物を対象とする臨床研究と基礎研究が有機的に統合された新たな精神疾患研究領域を国内に創出することを目的とした研究体制を推進しています。

このような精神疾患の一つであるPTSDは恐怖体験の記憶、すなわち、恐怖記憶が原因となる精神疾患であり、恐怖記憶制御基盤の理解は、PTSDの発症原因の理解と、その治療方法の開発に繋がるものと考えられます。現在、恐怖記憶想起後の制御プロセスである再固定化と消去を標的として、持続エクスポージャー療法を短縮することが試みられています。本セミナーでは、モデル動物を対象とした恐怖記憶制御基盤の解明に向けた研究内容を中心に、マイクロエンドフェノタイプ解明に向けた研究班の取り組みについて紹介したいと思います。

※本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目の授業として振替可能なセミナーです。

【お問合せ先】

東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野(担当：筈居)
TEL：022-717-7897(内線：7897)
メールアドレス：irides-dpsy@med.tohoku.ac.jp

